

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

令和6年5月1日

北都保健福祉専門学校 理学療法学科

科目名	学年	単位数	担当する教員の実務経験	教員氏名
リハビリテーション概論実習	1	1	理学療法士として臨床経験5年以上	菊川拓郎
理学療法概論	1	1	理学療法士として臨床経験5年以上	手代木みなみ
理学療法基礎技術論	1	1	理学療法士として臨床経験5年以上	菊川拓郎
地域理学療法学Ⅰ	1	1	理学療法士として臨床経験5年以上	富永恵理
評価法実習Ⅰ	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	北村勝
評価法実習Ⅱ	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	小橋泰文
評価法実習Ⅲ	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	菊川拓郎
評価学総論	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	北村勝
日常生活活動	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	富永恵理
運動療法	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	吉田幸史
運動療法実習Ⅰ	2	1	理学療法士として臨床経験5年以上	小橋泰文
臨床評価学実習	3	1	理学療法士として臨床経験5年以上	吉田幸史 北村勝 小橋泰文 手代木みなみ
骨関節系の理学療法Ⅰ	3	1	理学療法士として臨床経験5年以上	手代木みなみ
物理療法	4	1	理学療法士として臨床経験5年以上	吉田幸史
地域理学療法学Ⅱ	4	1	理学療法士として臨床経験5年以上	富永恵理
	計	15		

科目名	リハビリテーション概論実習		
担当教員	菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	23
履修目的・授業概要			
<p>リハビリテーション概論の内容をふまえ、理学療法士が働く現場を臨床見学することで、より具体的にその役割や意義を学ぶ。授業後半で実際に病院・施設を少人数グループに分けて実習に入り、医療施設とリハビリテーション部門、理学療法士、患者さんの現場を体験し、今後の学習へのモチベーションの向上につなげる。</p>			
到達目標			
<p>リハビリテーションの概念を理解し、臨床現場でどのような実践が行われているかを説明できる。</p>			
授業の形式・方法			
講義、実習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、見学実習後レポートにて判定			
学生へのメッセージ			
<p>施設見学は、臨床の現場での学習であり施設より受けている注意事項を守ることはもちろん、医療者としての行動に務めること。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	理学療法とリハビリテーション	菊川
2	理学療法士の役割	菊川
3	理学療法士の役割	菊川
4	理学療法士の職場	菊川
5	理学療法の流れ	菊川
6	リスク管理について	菊川
7	疾患の理解	菊川
8	疾患の理解	菊川
9	疾患の理解	菊川
10	疾患の理解	菊川
11	実際の見学実習で必要なこと	菊川
12	ケーススタディ グループワーク	菊川
13	ケーススタディ グループワーク	菊川
14	授業の総括、見学実習についてオリエンテーション	菊川
15	見学実習	菊川

コマ	履修内容	教員
16	見学実習	菊川
17	見学実習	菊川
18	見学実習	菊川
19	見学実習	菊川
20	見学実習まとめ	菊川
21	見学実習まとめ	菊川
22	全体の総括	菊川
23	試験	菊川
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	理学療法概論		
担当教員	手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
理学療法士を目指す学生として、これから4年間で学んでいく理学療法の大枠を知る。			
到達目標			
1. 理学療法士とその仕事を理解する			
2. 理学療法を学ぶ上で基礎となる用語や考え方を理解する			
授業の形式・方法			
講義・実習			
背部資料を使用した講義をメインとし、講義の合間にワークを入れて実施する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握してもらいたい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	理学療法士の仕事（歴史・制度・現状と展望）	手代木
2	理学療法の対象と活躍の場	手代木
3	理学療法の実践（運動療法の体験）	手代木
4	理学療法の実践（運動療法の体験）	手代木
5	理学療法の実践（物理療法の体験）	手代木
6	理学療法の実践（物理療法の体験）	手代木
7	理学療法の実践（その他）	手代木
8	理学療法の実践（福祉用具の体験）	手代木
9	理学療法の実践（福祉用具の体験）	手代木
10	理学療法の実践の流れ・思考（プロセス）	手代木
11	理学療法の実践の流れ・思考（プロセス）	手代木
12	理学療法の実践の流れ・思考（ICF）	手代木
13	リハビリテーションと関連職種	手代木
14	理学療法の安全管理（個人情報保護・医療事故・感染予防）	手代木
15	1～14コマの範囲について筆記試験を実施	手代木

科目名	理学療法基礎技術論		
担当教員	菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
臨床現場では、患者－医療者の信頼関係を築き、バイタルサインを確認しながら理学療法を安全に効果的に行うことが大切であるため、基本的技術を習得する			
到達目標			
臨床実習等で患者様に必要な手技を安全かつ効率よく計測することができる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
理学療法士としての基礎内容を学ぶ授業です。問診・バイタルサイン、異常動作介助など理論と実技を学んでいきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
バイタルサイン	聖マリアンナ医科大学病院看護部	照林社	2000

コマ	履修内容	教員
1	医療者としての心構え、態度、バイタルサインの定義	菊川
2	観察法～患者を意図、目的をもって客観的に評価する	菊川
3	体温測定のための目的、方法。体温の変動要因	菊川
4	脈拍とは、測定の目的、性質等	菊川
5	脈拍測定・血管触診（学生同士触診）	菊川
6	血圧とは、測定の目的	菊川
7	血圧測定（学生同士）	菊川
8	血圧測定（学生同士）	菊川
9	呼吸器に関する解剖学、呼吸数、呼吸型の種類等について	菊川
10	呼吸評価（学生間で呼吸測定）	菊川
11	意識障害について	菊川
12	意識障害の評価	菊川
13	上記以外のバイタルサイン 全身性・局所性の確認・注意事項	菊川
14	トランスファー、各種の姿勢、移動・移乗、介助の注意点	菊川
15	1～14コマの範囲について筆記試験を実施	菊川

科目名	地域理学療法学Ⅰ		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
地域リハビリテーションの概念をふまえ、予防、急性期、回復期、生活期のリハビリテーションにおける理学療法士の役割・専門性を考える。			
到達目標			
理学療法士として、医療的視点と生活の場での視点を持つよう、講義や実際に地域との連携を通して学ぶ。			
授業の形式・方法			
講義・課外授業（ボランティア活動）14コマ＋1試験			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
学生へのメッセージ			
これまで医療施設内が主であった理学療法士の活動が、在宅や地域に移行、拡大してきたことの意義やその目的、役割を整理し、そのための基本的知識や技術について学びます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
地域理学療法学第5版	奈良 勲	医学書院	5170

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーションの広がりと社会的背景	富永
2	地域理学療法とは①	富永
3	地域理学療法とは②	富永
4	地域リハビリテーションシステム①	富永
5	地域リハビリテーションシステム②	富永
6	地域との連携①	富永
7	地域との連携②	富永
8	地域との連携③	富永
9	地域との連携④	富永
10	地域理学療法と関連機関	富永
11	障害者福祉	富永
12	障害者・高齢者の生活環境	富永
13	地域理学療法の展開－1	富永
14	地域理学療法の展開－2	富永
15	試験	富永

科目名	評価法実習Ⅰ		
担当教員	北村 勝		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要			
理学療法評価に必要な形態測位と関節可動域測定を学ぶ			
到達目標			
①健常者の四肢長・周径を計測することができる			
②健常者の関節可動域を測定することができる			
③検査結果の解釈ができるようになる			
授業の形式・方法			
教科書を用いながら、基本的には二人一組の実技を中心に授業を行う。適宜、講義形式の授業も実施する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験と実技試験で成績を判定する。その比率は5：5とする。			
学生へのメッセージ			
形態測定や関節可動域測定は理学療法評価において必ず実施する評価項目である。また、理学療法評価の根幹をなす部分でもある。実技形式の授業がメインとなるため、主体的に学ぶことを期待する。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM 第2版一測定からエクササイズまで	隈元庸夫	株式会社ヒューマン・プレス	4620

コマ	履修内容	教員
1	形態測定・関節可動域測定に必要なランドマークの触診を復習する	北村
2	目的や方法の理解	北村
3	下肢長の計測の実際を学ぶ	北村
4	上肢長の計測の実際を学ぶ	北村
5	下肢周径の計測の実際を学ぶ	北村
6	上肢周径の計測の実際を学ぶ	北村
7	形態測定で得られた結果の解釈を学ぶ	北村
8	目的や方法の理解	北村
9	股関節の関節可動域測定を学ぶ①	北村
10	股関節の関節可動域測定を学ぶ②	北村
11	膝関節の関節可動域測定を学ぶ	北村
12	足関節の関節可動域測定を学ぶ	北村
13	肩関節の関節可動域測定を学ぶ①	北村
14	肩関節の関節可動域測定を学ぶ②	北村
15	肩甲帯の関節可動域測定を学ぶ	北村



科目名	評価法実習 II		
担当教員	小橋 泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要 新・徒手検査法の理解と技術の修得			
到達目標 ・筋力評価の意義、目的、測定方法を説明できる。 ・徒手筋力検査法を正確に実施できる。			
授業の形式・方法 実習			
成績評価の方法・基準 筆記試験、実技試験を5：5として評価する。			
学生へのメッセージ 教科書の記載事項を1つ1つ確認し、実技を進める。 実習時間に余裕がないため、必ず予習を行うこと。事前に筋の起始停止と作用の確認、教科書の各論で不明な点を明らかにしておくこと。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一	協同医書出版	8580

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション 総論・デモンストレーション	小橋
2	股屈曲 股屈曲，外転，膝屈曲位での外旋	小橋
3	股伸展・股伸展（分離） 股伸展（立位）・股伸展（背臥位）	小橋
4	股外転 股屈曲位での股関節外転	小橋
5	股内転 股外旋・股内旋	小橋
6	膝屈曲 膝伸展	小橋
7	足底屈 足背屈を伴う内返し・足内返し	小橋
8	足底屈を伴う外返し 下肢の復習	小橋
9	頭部伸展・頸部伸展・頭部屈曲・頸部屈曲 体幹伸展・体幹屈曲	小橋
10	体幹回旋・骨盤挙上 肩甲骨外転と上方回旋	小橋
11	肩甲骨挙上・内転 肩甲骨下制と内転	小橋
12	肩甲骨内転と下方回旋 広背筋のテスト	小橋
13	肩屈曲・伸展 肩外転	小橋
14	肩水平外転・水平内転 肩外旋・肩内旋	小橋
15	肩外旋・肩内旋（別法） 肘屈曲・伸展	小橋

コマ	履修内容	教員
16	前腕回外・前腕回内 手屈曲・手伸展	小橋
17	手指MP, PIP, DIP屈曲, 手指伸展, 手指 外転・内転	小橋
18	母指MP, IP屈曲・伸展, 母指外転・内転	小橋
19	グループワーク①	小橋
20	グループワーク②	小橋
21	疾患に対する実施①	小橋
22	疾患に対する実施②	小橋
23	筆記試験, 実技試験	小橋
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	評価法実習Ⅲ		
担当教員	菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	通	1	23
履修目的・授業概要 各種疾患の診断と評価，神経学的検査法の理解をする			
到達目標 ①神経学的検査を健常者に対して正確に実施できるようになる。 ②検査結果の解釈ができるようになる			
授業の形式・方法 教科書を用いながら、2～3人1組の実技を中心に授業を進めていく。適宜、解剖学・生理学等の講義も実施する。			
成績評価の方法・基準 筆記試験と実技試験で成績を判定する(5:5)			
学生へのメッセージ 感覚検査や運動麻痺の評価は、理学療法士にとって重要な評価項目です。実技メインの授業内容ですので、積極的に学びましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
神経診察クローズアップ	鈴木則宏	メジカルビュー	7000

コマ	履修内容	教員
1	反射の種類と腱反射のメカニズム・病的反射について	菊川
2	腱反射：実技（上肢）	菊川
3	腱反射：実技（下肢）	菊川
4	病的反射：実技	菊川
5	感覚経路・皮膚分布・感覚障害像について	菊川
6	感覚検査：実技（表在感覚）	菊川
7	感覚検査：実技（表在感覚）	菊川
8	感覚検査：実技（深部感覚）	菊川
9	感覚検査：実技（複合感覚）	菊川
10	小脳機能の診かた～病巣部位と障害像・診察のすすめかたについて	菊川
11	実技（運動失調検査）	菊川
12	実技（運動失調検査）	菊川
13	運動麻痺の診かた～Brunnstrom testによる運動麻痺の評価方法（上肢・手指）	菊川
14	運動麻痺の診かた～Brunnstrom testによる運動麻痺の評価方法（下肢）	菊川
15	運動麻痺の診かた～12段階片麻痺機能検査による運動麻痺の評価方法（上肢）	菊川



科目名	評価学総論		
担当教員	北村 勝		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要 評価についての理解を深め、その実践方法を学ぶ。			
到達目標 1.評価とは何かということを理解する。 2.評価の重要性を理解する。 3.理学療法の一連の流れを理解する。			
授業の形式・方法 教科書、プリントを活用しながら講義形式で行う。グループワークも多く取り入れる予定である。			
成績評価の方法・基準 筆記試験により評価する（100％）。			
学生へのメッセージ 理学療法は”評価に始まり評価に終わる”といっても過言ではない。しっかりとその流れ、内容について理解してほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
(参) 理学療法評価学 第3版	奈良 勲	医学書院	6380

コマ	履修内容	教員
1	検査・測定・評価について理解する	北村
2	検査の信頼性・妥当性・感受性・特異性について理解する	〃
3	ICIDH、ICFについて理解を深める	〃
4	〃	〃
5	処方箋を読み取る手順、ポイントを理解する	〃
6	理学療法評価の一連の流れを理解する	〃
7	情報収集の種類、内容を理解する	〃
8	統合と解釈の手順・内容を理解する	〃
9	〃	〃
10	問題点抽出過程を理解する	〃
11	ゴール設定方法を理解する	〃
12	診療記録の内容・記載の仕方を理解する	〃
13	医療面接のポイントを理解する	〃
14	サマリーを使用し、一連の理学療法プロセスを体験する	〃
15	試験	〃

科目名	日常生活活動		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーション医療における日常生活動作活動の意義について理解するとともに、障害のとらえ方や評価方法、疾患別ADLの基礎知識や指導方法等について各論・総論に分けて学ぶ			
到達目標			
1.日常生活活動の種類や範囲が理解できる。 2.代表的な評価の特徴を理解できる。 3.各基本動作やADLの特徴を理解する。 4.代表的な疾患におけるADLの特徴を理解できる。 5.基本動作の介助方法について理解する。			
授業の形式・方法			
講義・グループワーク			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
学生へのメッセージ			
理学療法において、日常生活活動は運動療法とともに大きな領域を占めます。患者さんやその家族、一人一人の生活スタイルに合ったADL指導の実施とQOLを高めるための視点を持つための基盤を作る。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
日常生活活動学	臼田滋	メジカルビュー社	5280

コマ	履修内容	教員
1	ADLの基本的概念	富永
2	基本的日常生活活動	富永
3	ADLと障害のとらえかた（WHO国際分類・障害分類）	富永
4	QOLの概念・構造、QOL	富永
5	ADLを支援する機器（自助具・補装具・車椅子）	富永
6	基本動作とセルフケア	富永
7	ADL評価の目的と役割	富永
8	各種ADL評価方法の実際	富永
9	各種ADL評価の活用	富永
10	疾患別ADL（人工関節）	富永
11	疾患別ADL（脳性麻痺）	富永
12	疾患別ADL（下肢切断・脊髄損傷）	富永
13	疾患別ADL（神経筋疾患）	富永
14	疾患別ADL（片麻痺）	富永
15	試験	富永

科目名	運動療法		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	前	1	15
履修目的・授業概要 運動療法に必要な基礎的な知識、技術について学習する。			
到達目標 運動療法に必要な基礎知識を身につける。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ 解剖学、生理学、運動学の復習も併せて行ってください。			
<参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準PT 運動療法 総論		医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	吉田
2	運動療法の歴史	吉田
3	筋トレ①	吉田
4	筋トレ②	吉田
5	ROM①	吉田
6	ROM②	吉田
7	ストレッチ①	吉田
8	ストレッチ②	吉田
9	持久力①	吉田
10	持久力②	吉田
11	協調性①	吉田
12	協調性②	吉田
13	運動制御と運動学習①	吉田
14	運動制御と運動学習②	吉田
15	試験	吉田

科目名	運動療法実習Ⅰ		
担当教員	小橋泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
2	後	1	23
履修目的・授業概要 関節可動域運動、筋力強化、持久力強化法についてその理論と実際を学ぶ。			
到達目標 ①ROM制限の原因を理解し、ROM訓練のプログラムを立案することができる ②筋力低下の原因を理解し、筋力強化のプログラムを立案する事ができる ③持久力低下の原因を理解し、持久力強化のプログラムを立案する事ができる			
授業の形式・方法 講義形式や実技形式で授業を行う。場合によってはグループワークを行うこともある。			
成績評価の方法・基準 筆記試験で成績を判定する。(100%)			
学生へのメッセージ 運動療法は理学療法士の主たる治療手段である。3年次、4年次の実習に向けて積極的に学ぶことを期待する。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	関節可動域運動の概念	小橋
2	関節可動域に影響を与える因子	小橋
3	関節可動域運動の一般原則、運動の実際	小橋
4	上肢の関節可動域運動	小橋
5	下肢の関節可動域運動	小橋
6	脊柱の関節可動域運動	小橋
7	関節可動域のプログラムの立案	小橋
8	筋力・筋持久力の概念	小橋
9	筋力に影響を与える因子	小橋
10	筋力増強の一般原則、運動の実際	小橋
11	機器を用いた筋力評価	小橋
12	上肢・体幹の筋力強化の実際	小橋
13	下肢の筋力強化の実際	小橋
14	筋力強化のプログラム立案	小橋
15	持久力の概念	小橋

コマ	履修内容	教員
16	持久力増強運動の基礎的理論	小橋
17	持久力増強運動の効果	小橋
18	持久力の評価①	小橋
19	持久力の評価②	小橋
20	全身持久力強化の実際	小橋
21	持久力強化のプログラムの立案	小橋
22	まとめ	小橋
23	試験	小橋
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	臨床評価学実習		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 小橋 泰文 手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	24
履修目的・授業概要			
模擬患者を通して統合と解釈をし問題点の抽出ができる。			
到達目標			
①模擬患者を通して適切な評価項目を抽出できる。			
②仮想の評価結果から統合と解釈ができる。			
③問題点を抽出することができる。			
授業の形式・方法			
主にPBL形式で行い、グループワークが中心となる。オムニバス形式のため、授業の順序は入れ替る場合がある。			
成績評価の方法・基準			
授業態度、レポート課題の内容で判定する。比率は手代木：小橋：北村：吉田＝3：3：2：2とする。			
学生へのメッセージ			
臨床実習へ向けての重要な授業の1つである。グループワークが中心となるため、自分自身の意見を積極的に発言することを期待する。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出①	手代木
2	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出②	手代木
3	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出③	手代木
4	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出④	手代木
5	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑤	手代木
6	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑥	手代木
7	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑦	手代木
8	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑧	手代木
9	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出①	小橋
10	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出②	小橋
11	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出③	小橋
12	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出④	小橋
13	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑤	小橋
14	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑥	小橋
15	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑦	小橋



科目名	骨関節系の理学療法Ⅰ		
担当教員	手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15
履修目的・授業概要 運動器疾患の理学療法の基礎を学ぶ。			
到達目標 1.主な運動器疾患の病態,評価,治療を理解する。 2.主な運動器疾患のリスク管理について理解する。			
授業の形式・方法 教科書とプリントを使用した講義（30%） ワーク（70%）			
成績評価の方法・基準 筆記試験により評価する(100%)。			
学生へのメッセージ 運動器疾患を持つ対象者は年々増加しており,今後臨床の場面で関わる機会がますます増加することが予想される.このことを踏まえ,主体的に学んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
(教)15レクチャーシリーズ 運動器障害理学療法Ⅰ 第2版	河村廣幸	中山書店	2860
(教)15レクチャーシリーズ 運動器障害理学療法Ⅱ 第2版	河村廣幸	中山書店	2860

コマ	履修内容	教員
1	運動器の理学療法を大枠を理解する	手代木
2	運動器の組織損傷と修復の過程を理解する	〃
3	主な骨折と脱臼の病態および理学療法について理解する	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	変形性関節症の病態および理学療法について理解する	〃
8	〃	〃
9	末梢神経損傷の特徴および理学療法について理解する	〃
10	頸部・腰部疾患の特徴および理学療法について理解する	〃
11	〃	〃
12	膝関節疾患の病態および理学療法について理解する	〃
13	足関節疾患の病態および理学療法について理解する	〃
14	肩関節疾患の病態および理学療法について理解する	〃
15	試験	〃

科目名	物理療法		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
4	前	1	15
履修目的・授業概要			
理学療法には運動療法と物理療法がある。 その物理療法を学ぶ。そして対象者の疾患を理解し、 各物理療法の特長や生理学的作用を理解する。			
到達目標			
対象者にあった物理療法を選択できる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
復習をしっかりとってください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
ゴールドマスターテキスト 物理療法	柳澤健	メディカル ビュー	3600

コマ	履修内容	教員
1	総論	吉田
2	物理療法の対象…疼痛	吉田
3	物理療法の対象…炎症	吉田
4	物理療法の対象…浮腫、循環障害	吉田
5	物理療法の対象…運動障害	吉田
6	物理療法の対象…神経障害	吉田
7	物理学…温熱 とその生理学的作用	吉田
8	物理学…光線 とその生理学的作用	吉田
9	物理学…寒冷 とその生理学的作用	吉田
10	物理学…電気 とその生理学的作用	吉田
11	物理学…水 とその生理学的作用	吉田
12	物理学…牽引 とその生理学的作用	吉田
13	その他生理的作用	吉田
14	物理療法の効果及びリスク管理、バイオフィードバック	吉田
15	試験	吉田

科目名	地域理学療法学Ⅱ		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの最終的な目標は生活を再建することであり、急性期→回復期→慢性期→維持期と全ての過程において対象者の生活について考えることのできる理学療法士を目指す。そのために地域理学療法についての理解を深める。			
到達目標			
地域包括システムを理解し、理学療法士の役割を説明できる。			
授業の形式・方法			
講義、グループワーク			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
VTR等も使用しますが、ただ見たり聞いたりするだけではなく、PTには何ができてPTが何をすべきなのかをイメージして下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
地域理学療法学第5版	牧田光代(編)	医学書院	5280

コマ	履修内容	教員
1	地域理学療法概念	富永
2	介護保険制度	富永
3	地域理学療法展開	富永
4	生活環境の整備(福祉用具とバリアフリー)	富永
5	生活環境の整備(移動のための福祉用具)	富永
6	生活環境の整備(住宅改修の考え方)	富永
7	生活環境の整備(トイレ・浴室)	富永
8	生活環境の整備(グループ検討)	富永
9	生活環境の整備(グループ検討)	富永
10	介護予防	富永
11	転倒予防	富永
12	地域理学療法の実際	富永
13	事例検討	富永
14	まとめ	富永
15	試験	富永